

平成22年度 学校自己評価表

(計画段階 実施段階)

福岡県立須恵高等学校長 印

36

学校経営方針				評価
学校教育目標	人間尊重の精神を基調として、自ら学び、自ら鍛え、心身ともに逞しく、国際感覚を備えた豊かな人間性を有し、平和で民主的な国家・社会の発展に寄与できる人間を育成する。 ⇒ 本校の教育の基礎・基本である「五省」を土台に、高い志を持ち、確かな学力と豊かな人間性を身に付けた生徒を育成するとともに、特色のある学校文化を創造する。			B
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標		
「五省」を実践し、意欲的に活動できる生徒が、多数育ってきた。創立30周年を控え、ハード・ソフト面ともに教育環境は整ってきている。今後、文武両道、学力の向上、部活動の活性化に更なる努力が必要である。	1 高い志と心豊かな生徒を育成するため、生徒の自主性や自己管理能力を育成し、心の教育を重視した学校行事の充実を図る。	(1) 「五省」を大切にし、生徒の自己管理による生徒会活動や学校行事を促進し、自信や誇り、帰属意識を高める。 (2) 講演会や芸術鑑賞会、体験活動、人権教育など、心の教育を大切にした学校行事を充実させる。		
	2 意欲的に挑戦する生徒を育成するため、文武両道、鍛えて伸ばす活気あふれる教育活動の工夫・改善を行う。	(1) 授業規律の確保や自主的学習習慣の確立、進路目標の早期決定など、生徒の自主・自律の意識を高める。 (2) 学校行事や特別活動の改善、部活動の活性化など、生徒の個性を生かし意欲を高める活動を促進する。		
	3 地域に期待される学校を構築するため、地域との連携を密にするとともに積極的な広報活動に努める。	(1) 小学生との交流会・出前授業・地域行事への参加等、地域との連携強化を図る。 (2) 学校説明会や公開授業、広報紙やHPによる情報提供等、積極的な広報活動に努める。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
学 習 指 導	授業規律の確立と授業内容の充実	チャイムと同時の始業、授業前後の挨拶を徹底する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイムと同時の始業はほぼできている。しかし、授業前後の挨拶や授業に臨む姿勢等はクラスや授業による差がある。 ・授業改善アンケートの分析は有効であった。その後の授業についての検証・確認が必要である。 ・各教科または担任により、授業の予習や課題についての指導はされている。今後も指導方法の検討は必要である。 ・入室許可証を用いた指導は継続していく。 ・1学期から2学期にかけて、出席率が大きく下がった。欠席・遅刻した生徒の家庭への連絡や保護者との連携はできているので、校内での遅刻欠席指導の内容や方法に工夫・検討が必要である。 ・新学習指導要領を踏まえて、カリキュラムの検討を随時進めていく。
		積極的な授業態度など意欲的に学習に取り組む姿勢を育成する。	B	
		予習・課題等の指導を通し、授業に臨む姿勢を育成する。	B	
		互いの授業を参観することにより、授業方法の工夫・改善を行う。	C	
		シラバスの改善と活用方法の検討を行う。	B	
	学習習慣の定着 (自主学習時間2時間以上) (追調査対象・各学年10名以内)	授業改善アンケートを活用した授業内容等の改善と活用方法の検討を行う。	B	
		調査内容の充実と平均点の適正化を図る。	B	
		各教科による学習時間定着に向けた取組を検討する。	B	
		予習、課題の指導の徹底等、家庭学習と授業との連動を図る。	B	
		学習時間調査による学習習慣の把握と改善に向けた指導を行う。	B	
出席状況の把握と改善 (年間出席率98%以上) (退学・転学者数計8名以内) 教育課程の検討	教務自学セミナーを実施する。	A		
	入室許可証を用いた遅刻等の生徒の状況把握と指導を行う。	A		
	家庭と連携した基本的生活習慣の確立を図る。	A		
	遅刻欠席者指導、家庭訪問、個人面談など学年と連携した取組を行う。	A		
	生徒の実態に即したカリキュラムの作成と検討を行う。	B		
事 業 企 画	情報管理	校内新旧LANの管理に努める。	A	
		生徒の個人情報の管理を徹底する。	A	
		サーバーへのアクセスをパスワード化し、個人情報を管理する。	C	
		進路検索や学習検索にインターネットの利用を推進する。	B	
		著作権や個人情報の管理についての指導を行っていく。	B	
部 研 修	情報機器の管理を行う。	インターネットの有効利用を推進する。	B	
		著作権や個人情報の管理についての指導を行っていく。	B	
		インターネットのセキュリティ問題について生徒職員の意識を高める。	B	
		貸出使用簿を作成して、情報機器の管理を行う。	A	
		可搬型PCや個人配布PCの管理を行う。	A	
	教科指導力の向上のための授業改善	2学期に授業参観週間、研究授業週間を実施し、授業改善を推進する。	A	
		研究授業担当者や参観者との共通理解のため、事前協議会を実施する。	B	
		保護者等に授業を公開し、多面的に授業評価を行う。	B	
		職員から広くテーマを求め、ニーズに即した校内研修を実施する。	C	
		特別支援教育に関する職員研修を企画し、実施する。	A	
人権教育の充実 (年間3回の人権教育HR) (年間4回以上の職員研修会)	校内研修・校外研修の推進	教育センター等の研修への参加を積極的に促す。	B	
		人権教育HRの内容の検討を深め、工夫・改善に向けての情報整理を行う。	B	
		全ての教育活動を通して、人権教育に対する生徒の意識の高揚を図る。	B	
		班会議、学年会議等を含めた職員研修を充実させる。	A	
		「生徒の学力を伸ばす授業改善」への取り組みに対する職員の意識を高める。	B	

企画管理	各種行事等の早期企画・立案・運営	年間行事予定を早めに立案、3ヶ月毎に細部を調整し、提示する。 各儀式の実施要項は2週間前に提示する。 防災避難訓練の事前指導を十分行い、目標時間内に避難を完了させる。 学校運営が効率よくできるよう、学校要覧を早めに作成する。	A A B A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式の計画を早める。 ・各行事の実施内容を全職員に徹底できるよう、要項の提示の仕方等工夫する。 ・教育環境の整備について担当部を統合する。 ・奨学金について、保護者にも分かりやすいよう紹介する。 ・職員室の環境美化をより一層推進する。 			
	教育環境の整備	整備の必要な箇所を大掃除時に調査し、関係部と連携し、改善する。 奨学金についてわかりやすく案内し、生徒の学校生活を支援する。 職員室の環境美化をこまめに呼びかける。	B A B				B		
渉外広報	広報資料の充実	須恵高ニュースを適時発行する。 学校案内の内容を充実させる。 学校紹介ポスターを作成し、配付する。	A B B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内等については、デザインの工夫はできたが、行事や部活動の写真が不足しているの で、計画的に撮影する必要がある。 ・体験入学では、制服の紹介、生徒による学校紹介等実施できたので、来年度も積極的に工夫をしていきたい。 ・PTA役員・委員との連携を密に取ることができ、委員会や、PTAの様々な学校行事支援が円滑に行われた。 ・小学生との交流会については、充実していたが、高校生と小学生との人数のバランス、当日のスケジュール等、改善の余地がある。 ・HPによる本校の広報活動があまりできていなかったの で、詳細な計画を立て、実施したい。 			
	中学校、保護者、地域への情報提供	中学生体験入学に300名以上参加できるように内容の充実を図る。 中学校訪問を年4回行う。 中学生、保護者、地域の方々へ本校訪問を積極的に呼びかける。 進路説明会、出前授業の要望を全て受け入れる。	A A A A				A		
	PTA・同窓会・後援会との連携	PTA総会と進路講演会等の同時開催を行い、出席率向上を目指す。 PTA各委員会行事の企画を支援する。 PTAの文化祭参加の支援する。	B A A	A					
	小学生との交流会を通じた地域との連携	小学生との交流会を活性化する。	A	A					
	HPの行事毎の更新	行事毎に写真や文章の更新を行う。 地域や中学生などの要望に応じてHPの改善を行う。	C C	C					
	生徒育成部	挨拶、時間厳守、適正な言葉遣い、マナーの向上などの指導を通して基本的な生活習慣を確立する。	重点目標を設定し、共通理解を図り指導にあたる。 風紀検査を実施する。 朝の門立ち指導、校内巡視、下校指導を実施する。 HR活動において校則や規範意識について考える機会を設定し、日頃より意識させる。	B A B B			A	<ul style="list-style-type: none"> ・当たり前のことが当たり前できるように、重点目標を絞り込んで教職員の共通認識と学年間の連携を図って取り組んでいく。 ・次年度は、下校指導を充実させていきたい。 	
部活動入部率、70%以上、そのうち文化部加入率20%以上を目標とする。			非行防止教室を実施する。 校則検討委員会において校則の見直しを検討する。 制服検討委員会を設置し、制服の見直しを検討する。	A A A					
			他校との交流や広報活動を積極的に行い、生徒会活動を活性化させ、生徒達の力で学校をよりよくする動きに繋げる。	新入生の部活動見学及び説明会を実施する。 顧問会議を学期に2回以上開催し、共通理解と部活動間の連携を図る。 部長会を必要に応じて実施する。 部活動生徒の集いを学期に2回実施し、生徒の意識の向上を図る。 地域行事への参加やボランティア活動を各部活動毎に計画し、実施する。 部活動の時間を確保する。 部の新設及び改廃を検討する。	A B B B B C	B			
				安全指導を通して社会規範の理解と安全・防犯意識の高揚を図る。	各種専門委員会を定期的に開催し、活性化を図る。 生徒会執行部の定例会議を実施する。 生徒会宿泊研修を充実する。 他校の生徒会と交流を行う。	C A A C			B
					セミナーハウスを活用した生徒研修を実施し、自主・自律・協調等の精神の育成を図る。	登下校指導を実施する。 通学路の点検及び周知徹底を行う。 早急な不審者等の情報提供を行う。 防犯ペルの貸出を行う。 自転車安全点検を年2回実施する。 生徒による安全啓発活動を実施する。			B A A B B B
セミナーハウスを活用した生徒研修を実施し、自主・自律・協調等の精神の育成を図る。						2年生は1泊2日の学級合宿を実施する。 1年生は2泊3日の学級合宿を実施する。 教職員へのガイダンスや指導生徒のオリエンテーションを充実する。			B B B
		定期的な顧問会議を開催する等、より顧問間の連携を図って指導に取り組んでいく。 ・部活動生徒によるボランティア活動を本年度以上に発展させて取り組んでいきたい。	B						
・各種専門委員会の定例委員会の実施や生徒会執行部の他校との交流を充実させ、生徒の力で学校をよりよきようにしようとする動きや意見が出てくるように指導していきたい。		B							
・次年度は、下校指導を充実させる中で、通学路の点検及び周知徹底を図っていきたい。 ・本年度入学生より自転車通学者の自転車保険の加入を義務づけたが、そのチェック体制を確立したい。		B							
・本校の特色の一つである学級合宿が、より効果的な合宿となるよう教職員のガイダンスや指導生徒の研修会を充実させていきたい。		B							

保健・美化	自主的・自発的な清掃活動	生徒指導統一HRを通じたゴミの分別及び廃棄要領の周知徹底を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・美化コンクール実施において、美化委員が工夫して評価に偏りが無いように配慮した。ゴミの分別ができていないので、2学期にはポスター等の啓蒙活動を行いたい。 ・生徒の心身の健康・安全に関する活動は保険委員会を中心によくできていた。 ・クラスマッチ等のけがが多く、救護の手が足りなかった。 ・年10回のカウンセリングは予定通りに行えているが、1年生を中心に希望者(カウンセリングが必要な生徒)が多くなってきているので、追加でカウンセラーに来ていただくことになった。この傾向は今後も続くことが予想されるので、継続して相談を希望する生徒には病院で受診することを勧めるか、カウンセリングの実施回数の見直しが必要である。 		
		ポスター等の掲示及び美化委員の清掃後の巡回、美化コンクールを実施する。	A				
		生徒指導統一HRを通じて古紙回収方法についての確認を行う。	B				
		美化委員会を通じて古紙回収リサイクル状況についての継続的な報告を行う。	B				
		古紙回収リサイクルのポスター等の募集や掲示など、環境保護の啓発を図る。	B				
	生徒の心身の健康・安全に関わる情報提供と組織的な連携の強化	健康診断結果について事後指導を実施する。	A	A			
		各種健康診断の結果を受けて、教育活動上必要な情報を職員へ提供する。	A				
		クラス・学年別の保健室利用者状況を毎月、年間計12回呈示する。	A				
		保健室入室記録簿の職員室持ち上がり職員への閲覧呼びかけを行う。	A				
		心身の健康安全に関する内容を記載した保健だよりを年間計10回発行する。	A				
	スクールカウンセリングや個人面談等、教育相談で得た情報の共有	校外研修活動への積極的な参加、研修内容の全校生徒への還元を行う。	B	A			
		個人面談時間を確保し、学期に1回、年間3回の個人面談月間を実施する。	A				
		年間10回のスクールカウンセリングを実施する。	A				
		悩み相談箱の管理及び相談があった場合の対応を行う。	B				
		個人面談などで得られた情報を職員間で共有するため、拡大学年會を実施する。	A				
進路	進学指導の充実と進路実績の向上	校内集中学習会等の校内における取組の積極的な運営支援を行う。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課外と部活動との関係より組織的な小論文や面接指導ができる体制を整えたい。 ・情報提供の新聞の発行については、内容の充実及び学年新聞との内容の摺り合わせを行う。また、進路のしおりの活用について、HRや総学に計画的に実施できるようにする。 ・コンピュータの活用について、研修部と合議して、計画実施したい。 ・模試については、結果の速報だけでなく、分析会を実施して、その後の指導に生かせるようにする。 ・大学分析は、本校生徒が多く受験する大学について行い、その結果を生徒に還元したい。 		
		長期休業中課外の効果的実施方法を検討する。	A				
		小論文指導・模試・添削等、各学年で計画的に実施する。	A				
	進路情報提供の充実	進路新聞の発行、各クラス生徒・保護者・教員へ進路情報を提供する。	A	B			
		コンピュータの活用と、その活用法の職員研修会を実施する。	B				
		教員による予備校等の授業見学を実施する。	B				
	進路意識の高揚	模試結果の活用方法を工夫する。	A	A			
		進路カウンセリングや上級学校関係者による講演を実施する。	A				
		大学や専門学校に関する入試情報や入試問題の徹底研究を行う。	A				
	図書	身近な図書館を目指し、図書館利用者数と本の貸し出し数の増加	図書館内の書架の配置や掲示物を工夫し、開放的な雰囲気を作る。	B		B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書はまだ教員の指導が必要で、巡回指導の人数を2名に増やしたが、まずは図書委員の自覚と積極的な呼びかけが必要と考える。 ・問屋訪問は1学期に2回実施した。昨年度より豊富な中から選べたため、来年度も同じ時期に実施したい。 ・岳城祭の準備は前年度後期から準備していたため余裕をもって取り組めた。来年度も同じように準備していきたい。
			各クラスにおいて図書委員による呼びかけを積極的に行う。	B			
			朝読書のための本の貸し出しを推進する。	B			
		広報活動の活性化	館報「パピルス」を年5回発行する。	A		A	
			掲示板「クローバー」の年4回更新を実施する。	A			
		効果的な選書の実施	生徒による問屋訪問を年3回実施する。	A		B	
興味関心の高い本・看護コースや小論文対策用図書の整備を行う。			B				
図書委員会活動の活性化		定期的な委員会の開催。朝読書指導を強化。	B	B			
読書指導・利用マナーの指導	文化祭への積極的参加。図書部独自の催しの企画・運営。	A	B				
	朝読書の習慣化。利用マナーの向上を図る。	B					

学 年 部	第一学年	基本的な生活習慣の確立	あらゆる機会を通じて時間の厳守や挨拶、適切な言葉遣いを励行させる。 欠席者・遅刻者に対する指導を定期考査ごとに行う。 身だしなみに関する指導を、学年独自に継続して行う。	B A B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・時間厳守や身だしなみについては、入室許可証発行ファイルの作成や学期毎の皆勤者の表彰など学年独自の取り組みを行うことができたが、大幅な改善が見られていない生徒が存在するため、個別の指導を徹底していく。 ・課題や小テストへの取り組みが不十分な生徒に対して考査前に学年指導を行ったが、継続することができなかった。期間等を検討し来年度は継続して行っていく。 ・人間関係のトラブルが多発してしまっていたが、その後の取り組みにより生徒が職員に相談できる雰囲気を作ることができた。今後は、生徒が中心となって良好な人間関係を作ることのできる取り組みを行っていく。 ・学年全体で取り組める体制をさらに確立するため、ある程度の指導内容のマニュアル化を行っていく。 		
		学習習慣の確立と進路意識の高揚	清掃の徹底などにより学習環境を整えとともに、授業規律を維持する。 教科担当だけでなく、担任等も協力し課題提出の徹底を図る。 予習や小テスト等への取り組みが不十分な生徒に対する指導を徹底する。 職業に関する情報などを提供し、進路について考えるきっかけを与える。 学年集会等を通じて社会の状況を認識させる。	B B B A A					
		良好な人間関係の構築	学校行事や部活動への積極的な参加を促し、入部率70%を目指す。 学年集会や面談、昼休みの巡回等を通じて他者を尊重する姿勢を育成する。	B B					
		職員間の連携強化	担任会や学年会を通じて共通理解を深める。 担任間、教科担当者・担任間の情報交換を日常的に行う。	A A					
	第二学年	基本的な生活習慣の確立とリーダーの育成	5分前行動、挨拶、言葉遣い、身だしなみ等の指導を徹底する。 年間出席皆勤者140名以上を目指す。 朝課外出席率97%以上を目指す。 リーダーシップ育成のため、学校行事等における主体的な運営を推進する。	B B A A	B			<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみに関して生徒指導部だけでなく職員全員で指導を行う。また、昼休み巡回は引き続き継続して行う。 ・現在、無遅刻、無欠席、無早退の生徒は、133名である。朝課外出席率は、97.1%である。安易な遅刻、欠席をしないように家庭との連携を強化する。 ・進路先に応じた講座や土曜セミナー等休日を活用した進路指導を計画的に行う。そのために学年全体で指導していく体制を作る。 ・居眠りや課題等の提出が悪い。引き続き教科担当者と担任が連携して指導を行う。また、面談を通じて保護者への現状報告と協力をお願いする。 	
		進路意識の高揚	アカデミー体験講座(大学体験)の事前事後指導を工夫する。 土曜セミナー、集中学習会の充実及びACEテストを実施する。 多種多様な受験に対応するため、小論文指導の体制づくりと計画的な実施を行う。	A A A					
		学習意欲の向上及び授業規律の確立	授業開始前の教材準備、チャイム席、居眠り厳禁等、授業規律を維持する。 課題調整、提出点検の工夫により、家庭学習課題の提出率を100%にする。 職員間の連携を強化し、持ち帰り指導の徹底を図る。	B B A					
		基本的な生活習慣および規範意識の確立	欠席・遅刻・怠学の状況や原因を随時把握し、家庭との連携を密接に行う。 欠席者・遅刻者指導を定期的に実施する。 5分前行動、挨拶、言葉遣い、身だしなみ等についての指導を徹底する。	A A B					
	第三学年	学習習慣の確立	予習を中心とした家庭学習の習慣を定着させる指導を徹底する。 学年全体で課題提出を徹底する。 自学室や教室の環境を整備し、放課後の自学を奨励し学習を習慣化させる。	A B A	A				<ul style="list-style-type: none"> ・年間皆勤者は50%を超えており、日頃からの遅刻・欠席者に対する指導の効果があらわれている。しかし、一部の生徒に遅刻・欠席が固定化されており、改善へ向けた特別な指導が必要である。 ・名札の着用に関しては、概ね良好であったが、指導を怠るとすぐに違反する生徒が多かった。身だしなみの指導における自律の育成が課題である。 ・第一希望進路実現へ向けた面談や進路講演会、学習会などは非常に充実していた。今後は、自発的な進路意識の高揚を図りたい。 ・リーダーシップの育成については、体育祭を中心に、各学校行事において、その成果があらわれたが、行事後にそれらが継続できていない点に課題が残った。
		進路意識の高揚と学習意欲の喚起	進路説明会・講演会等を計画的に行い、進路について考える機会を設ける。 各クラスで個人面談を行うとともに、クラスの枠を超えた面談体制を継続する。 総合学習の時間を中心に、進路別の個別指導を計画的に行う。 生徒の進路に応じ、適切な時期に校内学習会を実施する。	A A A A					
		自主性・リーダーシップの育成	生徒の自主性やリーダーシップが発揮できる学年行事を実施する。 積極的に行事に取り組む姿勢を育てる。	B B					